三鷹市立第四小学校　令和8年度【音楽】科　授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	【成果】 〇歌を歌ったり、鍵盤ハーモニカを演奏したりする時間を多くもつことで、音楽の楽しさを感じることができた。 【課題】 〇他の児童と音の重なりを感じながら歌ったり、演奏したりする機会が乏しい。	【現状】 〇音楽を鑑賞し、曲想に合わせて身振りを入れたり、音楽を聴いて情景を思い浮かべたりすることができている。 〇リズム遊びや打楽器のリズム打ちを楽しむことができた。 〇歌集を使って、様々な曲に触れ、楽しく歌うことができている。 【課題】 〇授業内では、全体指導が中心になってしまうため、個別の指導をする時間が取れていない。	【習得と活用】 〇学習発表会の音楽発表や入学式の新入生お迎えアトラクションなどに向けて、児童が学年で団結して、演奏することの楽しさを感じられるようにするとともに、音やリズムの重なりを楽しむことができるようにする。 【補充的・発展的な指導】 〇「たのしい鍵盤ハーモニカ」を活用し、個人の技能に合わせた技能の習得ができるようにする。また、児童にもミニ先生になってもらうことで、児童同士の学び合いにつなげる。 【「三鷹『学び』のスタンダード】 ◎タブレット内の鍵盤アプリを使って、指使いの練習を宿題にするなど、ICTを活用しながら、ご家庭でも鍵盤ハーモニカの技能を高めていく。
第2学年	【成果】 〇歌を歌ったり、音楽を聴いたり、リズム打ちや身体表現を取り入れることで、音楽の楽しさを感じることができた。 【課題】 〇鍵盤ハーモニカの技能習得において個人差が大きい。	【現状】 〇曲想に合わせて体を動かしたり、身振りを入れたりして音楽にのることを楽しんでいる。 〇強さや速さなどの曲想に着目しながら、音楽を聴くことができている。 〇歌集を使って、様々な歌に触れ、楽しく歌うことができている。 【課題】 〇みんなで音や気持ちを合わせて演奏ができたという達成感までは、まだ到達していない。 〇鍵盤ハーモニカの奏法について、正しい指使いやタンギングに課題がある児童が一定数いる。	【習得と活用】 〇姿勢や表情に留意し、音楽を体全体で感じながら表現できるように声かけをしていく。 〇CDやDVDを活用して表現の模範例を示したり、互いに聴き合い良さを伝え合ったりするなど、学習展開をさらに工夫していく。 【補充的・発展的な指導】 〇「たのしい鍵盤ハーモニカ」を活用し、スモールステップで技能の習得ができるようにしたり、個別指導に生かしたりしていく。 【三鷹「学び」のスタンダードの活用】 ◎鍵盤ハーモニカの技能習得に向けては、タンギングや指づかいを意識させ、確認し、家庭と連携しながら練習に取り組めるような計画を進めていく。
第3学年	【成果】 〇毎時間の体ほぐしや発声練習で、自然で無理のない歌い方を身に付けることができた。リコーダーの基礎的な技能の定着を図ることができた。小物打楽器でのリズム打ちや手話、身体表現を取り入れることで、音楽の楽しさを感じることができた。 【課題】 〇先生や友達の話を聞く「音ゼロタイム」への切り替えが難しいときがある。	【現状】 〇楽曲の感じをつかみ、身体表現を入れるなどして、音楽を楽しむことができている。 〇五線や音符を理解し、ワークシートを用いて階名を書いたり、読んだりすることができる。 〇リコーダーの名称・構え方・息の調整・タンギングの仕方を覚え、演奏に生かそうとしている。 【課題】 〇読譜や音符の名称などは繰り返し指導しないと覚えることが難しい。 〇リコーダー学習では、息の調節はできるが、タンギングを伴う演奏が難しい児童が一定数いる。	【習得と活用】 〇リコーダーの技能の定着を図るため、一人一人音をつなげていく「リレー奏」を取り入れ、自身や友達の音色のよさに気付かせる。 〇「できるようになったこと・まだ練習が必要なところ」を全体で共有し、次回の授業に生かす。 【補充的・発展的な指導】 〇ミニ先生やアドバイスタイムを取り入れて、児童同士の学び合いにつなげる。 【三鷹「学び」のスタンダードの活用】 ◎ペアやグループの活動を通して、考えを共有したり、良さを伝え合ったりして、言語活動の充実を図る。
第4学年	【成果】 〇歌唱では、歌詞の内容から様子を思い浮かべて歌ったり、旋律と強弱の関係性を探ったりしながら、歌の楽しさを感じることができた。 〇木琴、鉄琴、小物打楽器やボンゴ・コンガの奏法を知り、楽器で表現する楽しさを味わうことができた。 【課題】 〇器楽合奏学習では、周りの楽器の音色を聴きながら全体が合わさる響きを楽しむ力を伸ばす必要がある。	【現状】 〇２・３・４拍子の指揮の動作をしながら楽曲を聴いたり、拍にのって歌ったりすることができる。 〇様子を思い浮かべて強弱を工夫する学習では、活発な意見交換ができている。 〇短いフレーズで旋律づくりをし、共有することで友達の旋律のよさや面白さを感じることができる。 【課題】 〇気付いたこと・聴き取ったこと・感じ取ったことをまとめることが難しい児童が一定数いる。	【習得と活用】 〇リコーダー学習では、階名唱の際にタンギング唱を取り入れる。 〇楽曲の内容や様子が聴き手に伝わるような表現工夫を考え、歌唱や演奏に生かすようにする。 【補充的・発展的な指導】 〇交替奏やアドバイスタイムを取り入れて、児童同士の学び合いにつなげる。 〇文章化が苦手な児童には、言葉を選択できるようなヒントカードを用意・掲示する。 【三鷹「学び」のスタンダードの活用】 ◎様々な学習形態の工夫や鑑賞学習を通して、気付いたことや感じ取ったことを共有したり、演奏のよさを伝え合ったりして、言語活動の充実を図る。 ◎気付いたこと・聴き取ったこと・感じ取ったことを関連付けて文章にまとめるように助言、指導する。
第5学年	【成果】 〇歌唱では、２部合唱を取り入れ、音の重なりを感じながら歌うことができた。 〇器楽合奏では、様々な楽器の奏法を理解し、各パートの役割を考えて演奏することができた。 〇５音音階で簡単な旋律づくりをすることができた。 【課題】 〇器楽合奏では、指揮者を見ながら一定のテンポで演奏したり、表現工夫をしたりする経験がまだ少ない。工夫が音として表れるようにしていく必要がある。	【現状】 〇歌唱では、歌詞の内容や様子を思い浮かべて、リズムや旋律の流れを生かした表現をすることができた。 〇主旋律・副旋律・和音・低音・打楽器などの合奏を構成する役割を理解し、ふさわしい演奏表現を考えることができた。 【課題】 〇頭声発声を意識しすぎて声量が弱くなってしまい、表現力が落ちてしまう。 〇各楽器の音色のよさを生かした奏法、表現工夫が身に付いていない。 〇リコーダーのタンギングを伴う演奏が難しい児童が各クラスに数名いる。	【習得と活用】 〇生き生きとした歌い方や、高音を響かせる際の頭声発声に無理なく切り替えていく練習を取り入れる。 〇器楽・鑑賞学習では、表現についての考えを共有しながら、演奏に生かしていくような学習展開を工夫する。また、聴き合い活動を取り入れる。 【補充的・発展的な指導】 〇児童の実態を把握し、合奏譜の編曲を行う。 〇文章化が苦手な児童には、言葉を選択できるようなヒントカードを用意・掲示する。 【三鷹「学び」のスタンダードの活用】 ◎様々な学習形態の工夫や鑑賞学習を通して、気付いたことや感じ取ったことを共有したり、演奏のよさを伝え合ったりして、言語活動の充実を図る。 ◎気付いたこと・聴き取ったこと・感じ取ったことを関連付けて文章にまとめるよう指導する。
第6学年	【成果】 〇歌唱では、２部合唱を取り入れ、音の重なりを感じながら歌うことができた。 〇各楽器による曲想の変化を味わった鑑賞を器楽活動に生かし、楽曲の構成をアレンジした演奏を楽しむことができた。 【課題】 〇器楽合奏では、指揮者を見ながら一定のテンポで演奏したり、表現工夫をしたりする経験がまだ少ない。	【現状】 〇歌唱では、歌詞の内容や様子を思い浮かべて、リズムや旋律の流れを生かした表現をすることができた。 〇主旋律・副旋律・和音・低音・打楽器などの役割を理解し、楽曲の構成をアレンジして、演奏表現をし、クラスごとに共有することができた。 〇和音に合わせて４小節の旋律を、友だちと関わり合いながら試行錯誤し、つくることができた。 【課題】 〇表現自体に自身がもてない児童が数名いる。 〇各楽器の音色のよさを生かした奏法を身に付けることが難しい。 〇リコーダーのタンギングを伴う演奏が難しい児童が各クラスに数名いる。	【習得と活用】 〇生き生きとした歌い方や、高音を響かせる際の頭声発声に無理なく切り替えていく練習を取り入れる。 〇器楽・鑑賞学習では、表現についての考えを共有しながら、演奏に生かしていくような学習展開を工夫する。 【補充的・発展的な指導】 〇児童の実態を把握し、合奏譜の編曲を行う。 〇文章化が苦手な児童には、言葉を選択できるようなヒントカードを用意・掲示する。 【三鷹「学び」のスタンダードの活用】 ◎様々な学習形態の工夫や鑑賞学習を通して、気付いたことや感じ取ったことを共有したり、演奏のよさを伝え合ったりして、言語活動の充実を図る。 ◎気付いたこと・聴き取ったこと・感じ取ったことを関連付けて文章にまとめるよう指導する。